

県育成カンキツ「夕焼け姫」の栽培マニュアルに基づく管理について

～見てわかる高品質栽培のポイント～

富谷 拓幹（農業総合試験場園芸研究部常緑果樹研究室）

【令和2年12月4日掲載】

【要約】

愛知県初のカンキツ品種「夕焼け姫」は、果皮が鮮やかな赤橙色で、ウンシュウミカン「宮川早生」より2週間程度早く収穫できるのが特徴である。試験場では「夕焼け姫」の高品質果実生産を目的とした栽培試験を行い、栽培マニュアルを作成した。栽培の3つのポイント（マルチ栽培、摘果・摘蕾、適期収穫）が「見える化」され、高品質安定生産が可能となる。マニュアルは随時更新とし、「夕焼け姫」特設サイトから誰でも閲覧可能である。

1 はじめに（目的）

カンキツ「夕焼け姫」は愛知県で育種された品種(2013年品種登録)である。ウンシュウミカン「宮川早生」より2週間程度早く収穫でき、鮮やかな赤橙色の果皮が特徴である（写真1）。2018年から出荷が始まっている。

農業総合試験場で行ったこれまでの試験結果を基に、高品質化と連年安定生産に向けた栽培管理と収穫時期のポイント、農薬使用上の注意と栽培技術導入コストについて記載した栽培マニュアルを作成したのでここで紹介する。



写真1 「夕焼け姫」の果実

2 栽培管理3つのポイント



図1 栽培管理ポイント ①マルチ被覆 ②摘果/摘蕾 ③収穫

(1) ポイント①：マルチ被覆

7月下旬から収穫までマルチ被覆を行い、水分ストレスを適度に保つことで、高品質化を目指す。

被覆後の管理として朝、果実の硬さと葉の巻き具合を確認する。またクエン酸含量の確認を行い、9月上旬に3.0%10月上旬に1.5%を基準とする(図2)。いずれの場合でも、ストレスがかかりすぎている場合は、マルチを開放し3～5mm程度の雨水を入れるか、40L/樹のかん水を行う。

また、水田転換園など水分ストレスがかかりにくいほ場の対策として、植物成長調節剤「エチクロゼート乳剤(商品名:フィガロン乳剤)」の利用ができる。満開60日、80日後の2回、3000倍で散布する。

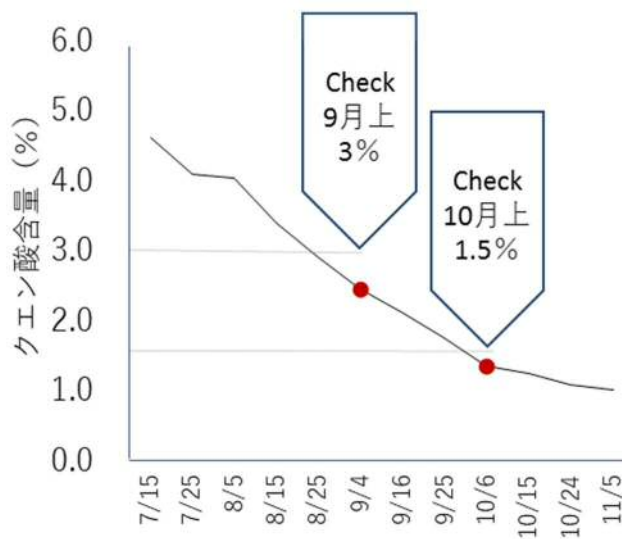


図2 クエン酸含量と水分ストレス基準

(2) ポイント②：摘果と摘蕾

隔年結果の是正として4月から5月に摘蕾、6月に枝別の全摘果を行う。摘蕾では表年の多着果の樹では、有葉果の摘蕾を行い、新梢を確保する。枝別の全摘果では親指の太さくらいの枝ごとに全摘果を行い、夏梢を確保する。これらの新梢は翌年の結果枝となるためこの時期に新梢を確保することで連年結実が見込める。連年のこの作業により樹勢が落ち着き、安定した着果が見込めるようになる。生理落果が終わった時点で葉果比8～10程度、新梢が樹の全体に発生する状態を目標とする。

高品質化のために、8月下旬までに粗摘果、9月中下旬までに仕上げ摘果を行う。摘果量は粗摘果で2～3割、仕上げ摘果で7割程度とした後期重点摘果を行う。

粗摘果は、果実の成熟が年によって前後するため果面が滑らで光沢がでる時期を目安に行う。極端な小玉果や傷果などを中心に摘果する。葉果比は10～12程度を目標とする。

仕上げ摘果は、果実が全体的に下垂してから行う。この時期になっても下垂しない上向きの果実や、軸太果、日焼け果や内なりの小玉果を中心に摘果することで中程度の大きさの果実のみが残るようにする。注意すべきことは、天なりの果実を残すことである。この時期の摘果が夏秋梢の発生を助長するため、10月になるまでは残しておく。

9月中下旬の仕上げ摘果が終わった時点で、葉果比20～25程度、中玉で下垂した果実のみが残るようにする。

×天なり 10月中

早すぎると夏秋梢発生の原因なるため10月以降に落とします。

×軸太果・粗果面果・上向き果 仕上げ摘果

側枝等に直接ついた軸の太い果実。水分ストレスが少なく糖度が乗りにくい。着果が少ない場合は全摘果により予備枝とします。

×日焼け果 仕上げ摘果

天なりの場合は夏秋梢発生を防ぐため、10月以降に行います。

×内なり 粗・仕上げ

葉裏に隠れた小さい果実を取ります。粗摘果ではごく軽く、仕上げ中心とします。

×小玉果 傷果 粗摘果

肥大の悪い果実、傷果を取ります。



図3 摘果のポイントまとめ

(3) ポイント③：適期収穫

11月に入り、9分着色以上になったら収穫を行う。9分着色以上の収穫では目標糖度の12度を越える果実の割合が高くなる。収穫時期の高温により、浮皮やクラッキング、退色等の果皮障害が助長されることがあり、適期収穫によりこれを防ぐことが出来る。

また、「夕焼け姫」は収穫後にも果皮の赤みが深まる性質がある。1週間程度の予措を行うことで、目標の果皮色であるカラーチャート値10を越える果実の割合が増える上に、日持ち性も向上する。

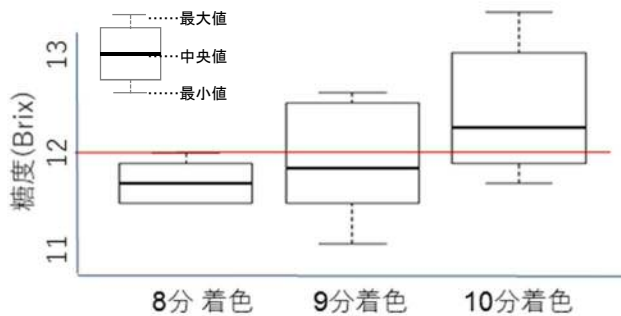


図4 収穫時着色歩合と糖度



図5 収穫時カラーチャート値とその経時変化

3 農薬使用上の注意

「夕焼け姫」は農薬登録上の「かんきつ」に該当する。このため、「みかん」と「かんきつ」で収穫前日数が異なる薬剤や「かんきつ」に登録がない薬剤の使用に注意する必要がある。例として、マンゼブ水和剤（商品名：ジマンダイセン水和剤）は「みかん」では収穫前日数が30日だが、「かんきつ」では90日である。また、チオファネートメチル・マンネブ水和剤（ラビライト水和剤）は「みかん」の登録のみで「かんきつ」では使用できない。マニュアル内でほかにもいくつか例を紹介しているが、使用の際には農薬の登録内容を確認して薬剤の選択を行う。

4 栽培技術導入のコスト

このマニュアルで紹介している技術は、マルチ被覆が前提となる。マルチ（タイベックソフトタイプ）は150千円/10a程度で1度敷けば3年利用できるため、年間で約50千円程度の経費がかかる。固定する際に使用する鉄パイプ（5.5m1500円/本）は約70千円/10a、パッカー（50円/個）は約15千円/10aとな

り5年使用することを想定すると年間で鉄パイプ約14千円、パッカー約3千円程度となり、マルチ被覆の導入コストは235千円/10a・年である。また、エチクロゼート乳剤（商品名：フィガロン乳剤）は約12千円/10a程度となる。

商品名	10aあたりの価格
タイベックソフトタイプ	約150千円（50千円/年）
鉄パイプ	約70千円（14千円/年）
パッカー	約15千円（3千円/年）
フィガロン乳剤 （3000倍2回散布）	年間約12千円

表1 資材一覧と10aあたりの価格

5 まとめ

以上のとおり、「夕焼け姫」の高品質安定生産技術を栽培マニュアルにまとめた。この記事は概要であるため、この技術の詳細については「夕焼け姫」サイト内の栽培マニュアルを参照頂きたい。

「夕焼け姫」オフィシャルサイト (<https://www.pref.aichi.jp/engei/yuyakehime/index.html>)



図6 「夕焼け姫」特設サイトリンク